



## ～巻頭言～

### 新年にあたり



新年明けましておめでとうございます。

昨年は、コロナが5類になり各地でのイベントも通常通りに開催され、経済も少しずつ上振れに向かい結構な年でした。しかしまだコロナ前の状況にはなっていないようです。

建設や製造、サービス(観光地、温泉等)業全般に

回復しているようです。大企業では過去最大の利益確保と経済ニュースが紙面を踊っております。しかしなぜか人手不足が起こり中小零細企業にまで経済波及効果が来ているとは思えません。そこに物価高が押し寄せ賃上げ要求も労組、政府一丸となって騒いでいます。物価高の原因は、ロシア、ウクライナ戦争に始まり米国のインフレ抑制の利上げであります。円安ドル高がもたらす輸入資源の高騰が生活にインフレをもたらしています。政府の言う、賃上げによる消費需要がもたらすインフレではないとして日銀は異次元のゼロ金利政策とお金のバラマキを続けています。輸出産業は潤い輸入産業は厳しい状況にあります。政府のバラマキ政策で中小企業まで経済が波及するとは思えません。選挙目当てでなく、国家100年を見据えた改革が必要かと思えます。世の中の変革スピードに政府が追いついていないのが現状と思えます。岸田総理の言う経済の好循環「賃上げ、消費の拡大、企業の利益、投資、賃上げ」は70年前のケインズ経済学の理論で、今の世界の経済環境で所得倍増が可能か？わかりません。

インボイスも昨年10月に実施され、1月からは電子帳簿法が実施されます。マイナンバーもろくに完成されていないのに国民、企業にDX(デジタル・トランスフォーメーション)を要求してきます。DXは世界の流れですが、デジタルのプラットフォームや環境整備に投資をして中小企業でも導入費用の低コスト、ランニングコストの低減化を図ってほしいものです。世界情勢の不安定化それに伴う経済の不安定化の中、我々は与えられた環境で努力、経営しなければなりません。今年の経済は大企業と中小企業の格差拡大、中小企業の中でも同業種、異業種問わず格差が生じる年になるかもしれません。がんばりましょう。

新年に当たり思うところを書きました。本年もよろしく願い申し上げます。